

【1班】神奈川学園高等学校2年女・鎌倉女学院高等学校2年女・神奈川県立横浜国際高等学校2年男子・神奈川県立相模原中等教育学校4年男・湘南工科大学付属高等学校3年男・神奈川県立大和南高等学校1年女・神奈川県立綾瀬西高等学校2年男

【ファシリテーター】小林勇輔(鎌倉学園中学・高等学校)【書記】中島尚樹(NPO 情報セキュリティフォーラム)

- 相互紹介、呼び名の確認
- 生徒による最初の討議
- ・なぜネットに個人情報を書き込む人がいるのか？Twitterに鍵をかけていないのに、友達以外は見ていないと誤解している人がいる。
- ・ネットは自己表現をするチャンスの場合であると自分は思う。
- ・自分で失敗を経験することが大事であって、フィルタリングがガチガチだと失敗を経験できない。
- ・小中学生はフィルタリングが必要だが、高校生には必要ない。
- ・フィルタリングの様な規制ではなく、警告がいいと思う。
- ・”いけない”ではなく、”どうすればいいか”というのを教えてほしい”
- ・犯罪はなくせない、減らすことしかできない。
- ファシリテーターより提案。→今思いつくルールと、それに対して思うことを付箋に書いてみよう。
- ・各人が思いつくものを付箋に記入し、お互いに発表し合う。
- ・大人の理解不足による意味のないルールが多いのではないか？
- ・大人の理解不足を指摘するようなメッセージを發表したい。
- ・大人に対する文句だけで本当に良いのか？自分たちにも問うべきことはあるのではないか？
- ・1 会場への呼びかけ、2 大人たちへ（未来の自分）、3 今の私たちへ、という様な構成の發表が良いのではないか。
- ・大人と子供が一緒になって取り組まなくてはいけないのに、大人からの一方的な押し付けになっていないか。
- ・そもそもなんでフィルタリングというものがあるのか？→フィルタリング会社の人に聞いてみよう。
- ・デジタルアーツ社の工藤さんからお話し。→小さい子供に心の発達にふさわしくないものを見せないようにするため。例えば、将来君たちが親になった時、自分の子供がテロリストの処刑シーンの動画を見てしまって、ショックを受けたらどう思う？そうならないための技術的な選択肢としてフィルタリングというサービスを作っている。
- ・一同納得顔。確かにそういう場合は必要だ。

- ・啓発教育をやってもよくなる、別のアプローチが必要。
- ・使用者が甘えている、自分で考えていない。
- ・ただの仮想空間ではないということを教える必要がある。
- ファシリテーターより提案。→今日ここに来たのは何を目的に来たのか？原点に戻ってみよう。今までの議論を経て、現時点での考えをまとめてそれぞれ發表してみよう。
- ・SNSにもいい面があるので、そのことについて大人と分かり合いたい。親と話がしたい、食卓でもいいから。
- ・今日は、午前中は退屈で、適当に終わらせて帰ろうかと思っていたが、皆とこんなにも話し合えるとは思わなかった。Twitterでは意見をぶつけ合うことが出来るが、現実での意見のぶつけ合いが足りない。意見をぶつけ合うことが大事だと思う。
- ・インターネットは悪いものではない、ルールやマナーを守れば楽しいものだ。最初は大人が悪いと思っていたが、今は子供も責任を持つ必要があると思うようになった。これから大人になる自分たちがネットの良い点と悪い点を伝えていく必要がある。
- ・ワンテンポ置いて考えることが大事。そしてネットを通して相手の目を見る。文字だけのやり取りだけど、相手を理解しようとする。
- ・でもネットだけの知り合いの場合は、相手がどんな人だか分からないから、理解するのは難しいのでは？
- ・皆ネットのことを理解しているというのが本当か？SNSは他の人も見ているので、見ている相手のことも考えてやるべき。
- ・いつまでも規制だけだと自立できない。仮想空間で言うのではなく、現実で言えることが大事。それが出来ないなら、情報社会なんて作るな。
- ・SNSだけの繋がりだと学校卒業してからどうなるのか考える。
- 發表内容
- タイトル：かわいい子には旅をさせろ
- ・大人に質問→SNSを使っていますか？
- ・子供に質問→フィルタリングは必要ですか？
- ・フィルタリングで済ませるのではなく、保護者が正しい方を教えるべき。
- ・しかし大人だけが悪いわけではない。大人の意見も尊重し、お互いに理解し合う。
- ・”モラル増強システム”により自己責任の力をつける。

【ファシリテーター所感】

発言力のある生徒を中心に議論がスタート。全員が場に意見を出せる環境を整えることを意識した。ルールについて考える時間は非常に短く、その先の本質に触れようとする時間が多くとれたのではないかと感じている。

フィルタリングについての意見、提言をしようと話が収束し始めた時に、もう一步踏み込んで「お互いで理解しあう」「話し合う場を作る」「僕たちも大人になる」といった議論が始まったことに、彼らの大きな可能性を感じる事ができた。

【書記所感】最初はフィルタリングや、大人の理解のなさに対して不満を持つ声が多く、またそれぞれの意見の相違も見られた。しかし議論を重ねるうちに、一方的に大人のせいにするのではなく、自分たちの問題にも目を向けられた点が印象的だった。そして、ネットについて、本当はもっと保護者と話がしたいのだろうと感じた。今日の議論をきっかけに、各家庭での親子のコミュニケーションが深まることに繋がればうれしく思う。

高校生 ICT Conference 2015 in 神奈川 熟議録

【2班】鎌倉女学院高等学校1年女・神奈川県立相模原中等教育学校4年女・神奈川県立綾瀬西高等学校1年男・湘南工科大付属2年男・神奈川県立横浜国際高等学校1年女・神奈川県立大和南高等学校1年男・神奈川学園高等学校2年男

【ファシリテーター】工藤由希(鎌倉女学院高等学校)

【書記】川又一矢(情報科学専門学校)

F:自分は親にいつでも携帯を見せなくてはいけないルールがあった。みんなはどう？

S: パスコードは親に教えている。

S: 小学校から持っていて親からのルールや縛りはない。自分でiPhoneを身に着けている。

S: フィルタリングのかからないブラウザを見つけた。

F:ルールがないことについてはどう？

S: 見たいサイトが見れて便利。

S: 時間の制限がなくてやりすぎた。

-昼食-

S: SNSの危険性をもっと親が理解し、伝えるべき

S: 時間の制限を設ける意味がわからない。

S: 課金は自分のお金で制限を設けるべき。

S: ルールがあいまい

F: どういうところ？

S: 理由があいまいな中、制限だけをかけられても納得できない。

S:ダメダメいう大人が一番できていないのに説得力がない。

F: 胸が痛い・・・・・・・・

S:あまりにも過保護すぎるのは良くない。自由の中で学ぶことも多いと思う。

S:今は昔と違いスマートフォンがあり考えや常識が変わりつつある。

Sチャットとかのアプリで学べることもあるよね

S: なんでも制限してしまうと、ネットの世界でしか得ることのできない有益な情報も阻害してしまう。

S:親と子供でしっかり話あってルールは決めるべき。

F:あいまいなルールはどうしたらいい？

S: 理由を説明するべき。ルールを作る側だけが理由を理解していても仕方ない。

F:逆にいいともうルールはある？

S: 食事中禁止とかは会話もできなくなるというルールがはっきりしているしいいと思う。S:ルールは束縛のためにしているわけではないよね、そこの加減が難しい。

S:子供のほうが知識がある。大人に教えてあげることも必要かも。

F:ルールを作られていない人は親の知識がないから？信頼されているから？

S: 両方。

S:やはり親と子供が同じだけの知識を持つことが必要。

S:前フィルタリングなくても安全といことを説明したけど理解してもらえなかった。

S:親子で講演会でも出たほうがいい

S:情報は日々進化しているから大人も最新の情報を理解することが必要。

<熟議終了>

【ファシリテーター所感】

「大人のつくったルールは定義が不明確」という言葉からこの班の話し合いは進んでいった。大人が作ったルールに対する不満が多い一方、その必要性や意義については一定の理解を示しているようであり、高校生はまさに大人と子供の狭間にある存在なのだと感じた。短い時間ではあったが「熟議」にふさわしい話し合いになったと思う。発表時間を守ることを優先してしまい、もう少し多くの内容を発表させることができればよかった。

【書記所感】

聞き取れず記入できない箇所がいくつかありましたが、前後の会話などを聞いて記入できました。また、高校生の意見を聞いていろいろ勉強になるところがいくつかありました。

【3班】鎌倉女学院高等学校1年女・神奈川県立相模原中等教育学校4年男・湘南工科大学附属高等学校2年女・神奈川県立川園高等学校1年女・神奈川県立大和南高等学校1年女・神奈川県立横浜国際高等学校1年女・神奈川県立横浜平沼高等学校1年男	【書記】猿渡 浩平 (情報科学専門学校)
<p>【ファシリテーター】 佐藤 正二 (鎌倉女学院高等学校)</p>	<p>【書記】猿渡 浩平 (情報科学専門学校)</p>
<p>■アイスブレイク スマホを使っていて便利だと思ったこと。 ・情報の早さ ・遠方に住んでいる友人との連絡 スマホの不便なところ。 ・情報量の多さに対して画面が小さい。</p> <p>■不満のある大人の作ったルール(何でも) バス、電車の中の携帯禁止 登下校中、校内での携帯スマホ禁止。</p> <p>他人への迷惑。 ■各校の携帯電話 ・自己判断 ・一応禁止 ・使わない、出さない、電源を切る 決まりの意味が生徒に伝わってない。 ・決まりはあるけど生徒が守らない。ほとんどの生徒が 授業中に寝てるか携帯をいじっているか。 要望は言う割にルールは守らない。→わがままなのでは?? ・自分次第、授業中に携帯を触る人も殆どいない。 ・学校→震災後に所持だけ許可。申請が必要。家庭内での ルール作成、印鑑。 ・授業内容に関しての調べごとを授業中にスマホでした い。 教科書とノートとスマホの3つを机にひろげている。 ・自分がネットで見たページやラインの内容などが親に 通知される。フィルタリング。 →将来的に自分で判断できなくなるのではないか。 →規制をある程度緩めることで自立に繋がるのではない か。 →高校生なのだからある程度自分で判断できるし任せら れるべき。 →ルールの形骸化、言われてやるのであれば意味が無い のではないか。 →良いことをしているはずなのに、大人の事後判断で(ル ールに当てはめることで)悪いことになってしまうことが ある。 →規制を受けて育った人の事例。自由になった時に加減 が解らない。 →親の心配が逆効果になっていることもある。 ・スマホやゲームの噂を信じすぎてルールを押し付ける。 ゲーム脳、犯罪率など。 ・ITに関しては大人世代よりも子ども世代の方が知って いる。 大人は子どもより知っていなければならない。 つまり大人の知らないところでやら ないで欲しい。 大人も正確な情報をちゃんと収集できていない。 知ったかぶりのような。</p> <p>子どもと大人の間で情報を共有するべきなのでは。 ■ルールを守れない理由はなんなのか。 ・連絡先を交換することも必要。 ・連絡が入った時はチェックしていないと逆に怒られる。 ・授業中にゲームをしている等は規制されるべき。 ・ゲームをしている人達は自分の欲を抑えられない。 ・携帯依存症のような状況になるのは良くない。 ・授業中の携帯使用は良い面もある。 物理の授業などでは映像を見ないとイメージ しづらいものもある。 ・授業中に調べ物をするのも良いが、後で時間をとって</p>	<p>守る人、守らない人、反発する人、そういう人達がいて一 つの社会を形成している。 学校としてのルール 学校は学ぶ場。 友人たちとの交流の場として考え得る人もいる のでは?? 高校は義務教育じゃない。 前提として学びたくて来ているのはず。 とりあえず来ている人もたくさんいる。</p> <p>■昔のルールをそのまま使っているのは良くない。 ・スマホやPCの時間制限。 依存症や健康管理への危機感があった。 現状の理解って?? ・電車等での優先席付近での携帯の使用。</p> <p>●先生と生徒が話し合っただけでルールを作ればいいのか?? 先生も年齢層も広い。 年齢層の高い人は硬い人も多い。 大人と子どもが同じレベルで話し合うべき。 先生の価値観と生徒の価値観を紐付けて歩み寄れるのであ れば理想。 妥協点も必要。</p> <p>■公共の場でのスマホ利用、もっと良くするには。 ・電車の中での通話。 ・イヤホンの音漏れ。 ・歩きスマホ。 公共の場での規制→「危険だから」 加害者、被害者になりたくなければ守るべき。 規制は警告。 今できることはTPOを守ること、啓発していく ことしかないのでは。 ~技術が道徳を代行する。 ~技術の進歩により守るべき道徳が失われてきている。 相手の立場を考えて行動するべき。</p> <p>■フィルタリング ・契約時にどのサイトは規制していいか子どもと相談する。 ・フィルタリングの意味をしっかりと子ども側にも説明し て欲しい。 ルールって?? ~例えばサッカーだったら、、、 オフサイドが無ければずっと走って行ってしまう。 ファウルが無ければ暴力をふるえてしまう。 ゲームバランスが崩れないようにルールが作られている。 →なぜそのルールが出来たのかをちゃんと理解して、自分 たちに合わなくなったらその時点で改善していくべき。</p> <p>→ どこかが決めたもの マナー → 自分が相手に対してしたいこと ☆チームのテーマを「公共の場での使い方」に決定。 ・歩きスマホ ルールを守らないのは、ルールを守らないことを悪いと思 っていない。 危険性をしらない。 →どうしたら守ってくれるような周知ができるか。 スマホ購入時に講習を受ける。 ・イヤホンの音漏れ 音漏れに自分自身が気づいてない。 周りの人も注意しづらい。 →どうしたら守ってくれるような周知ができるか。 ・電車内での大声での通話</p>

高校生 ICT Conference 2015 in 神奈川 熟議録

<p>先生とも共有したほうが有意義だ。 それで先生と生徒の考えのギャップを埋められるのは良いのでは。 ・大人のルールを守っている人が優遇されるのが納得いかない。 ■ルールを守れないのは「使いづらいから」 どうしたら改善できる?? ・教室で使えるスマホを学校で用意する どこまでが授業内容なのか、、、 先生が生徒のしている画面をモニター出来るようにする。 ・ルールがありすぎるのでは ・授業中にゲームするなら授業に出なくていい。 周りの人からの印象も悪い。 やっているだけで真面目にやっている人の気を散らしている。 価値観が人それぞれ違うから、どれだけルールを作ったとしても守る人と守らない人がいる。</p>	<p>自分の声の大きさに気づかない。 →どうしたら守ってくれるような周知ができるか。 声の大きさを数値化出来るようなシステムを作って明確なルールを作る。 まとめ ・守りたくても守れない時がある ・自覚をもち自発的に自己責任で規制してもらう。 ・大人と子供では基準が違う。時代によっても基準が違う。 →なので話し合っってルールを決めるべき。 ・土台となるルールの意味を理解することが大切。 ・行動の基準は個人の価値観によるもの。 <熟議終了></p>
<p>【ファシリテーター所感】 初めて会った生徒同士だったので、初めは様子を見ながら意見言っていたが、直ぐに生徒同士が打ち解けて活発な意見を発言するようになった。後半は自分たちで話し合いをリードし、素晴らしい発表資料をまとめていた。 話し合いの中で得られたものを、学校に持ち帰って活用して欲しいと思う。</p>	
<p>【書記所感】 7人中6人が1年生という中で、それぞれがしっかりと自分の意見を発言できていた。初めてのグループディスカッションとしては十分な成果だと思う。 今後、様々な手法を学んでいくことで、今回の経験を活かして欲しい。</p>	

高校生 ICT Conference 2015 in 神奈川 熟議録

【4班】神奈川県立横浜平沼高等学校1年男・鎌倉学園高等学校1年男・神奈川県立大和南高等学校1年女・鎌倉女学院高等学校1年女・横浜国際高等学校1年女・厚木西高等学校1年女・クラーク記念国際高等学校3年男

【ファシリテーター】小澤美紀(神奈川県立総合教育センター)

【書記】出雲圭佑(情報科学専門学校)

<p>世の中に対する気になること</p> <p><ツイッター関連></p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真の内容、位置情報、本名、確認を取る、知らない人と話すのがよくない ・盗撮、LINEのグループトークでも勝手に写真を載せてもいいのか <p><親から言われたこと></p> <ul style="list-style-type: none"> ・知らない人と話してはいけない ・自分の部屋にスマホを持ち込んではいけない ・マナーを守れないと使えない ・動画投稿を控える ・危険なサイトの判断が子供と親とで違う ・親がフィルタ機能などの存在を把握していない ・周りを巻き込んではいけない ・政治的内容を注意された <p><学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のフィルタリングが厳しく調べたいことが調べられない <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールが曖昧 ・いじめとからかいがわかりづらい ・携帯管理はマナーの学習の勉強になる ・ルールとマナーは違う ・出会い系などの対策法はたくさん出回っているがその他の講習が少ない 	<p>ルールとマナーの違い</p> <p>ルールは破ると罰則</p> <p>法で制約</p> <p>マナーは個人での範囲で罰則がない</p> <p>盗撮や位置が分かる写真は危険度が高い</p> <p>《大人から言われたことに対する疑問や対抗策をまとめる》</p> <p>家での自分の部屋でのスマホ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実績を出す ・禁止される理由を聞く <p>知らない人とのID交換など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的に知らない人とかかわらない <p>動画投稿やSNSを控える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日〇時間~する <p>ネットの使い過ぎに気を付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無駄遣いを控える <p>学校のフィルタリングが厳しい</p> <p>危険なサイトに入らないように気を付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親と一緒に見てみていいものと悪いものを決める <p>学校で携帯電話の持ち込み禁止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用について制限したうえでの解禁 <p>政治的内容について注意された</p> <ul style="list-style-type: none"> ・攻撃すぎる内容については指導、助言 <p><熟議終了></p>
---	---

【ファシリテーター所感】

テーマが大きいため、協議の導入でどのような意見を出せばよいか迷っている様子があった。協議が進んでいくと、本音の部分や、自分の周囲で起こっていることなど、具体的な話題が出てくるようになり、最終的に全員の意見を統合することができていた。学校や学年を超えて、協議を深めることができる高校生のパワーに圧倒された。

【書記所感】

様々な意見が飛び交う中要点をまとめて書き込むことが難しく、協議の内容を効果的にまとめられたかは疑問が残ります。

高校生 ICT Conference 2015 in 神奈川 熟議録

【5 班】神奈川県立大和南高等学校 2 年男、神奈川県立横浜平沼高等学校 1 年男、クラーク記念国際高等学校 1 年男、神奈川県立湘南台高等学校 2 年女、神奈川県立横浜国際高等学校 1 年男、鎌倉女学院高等学校 1 年女、鎌倉学園高等学校 1 年男

【ファシリテーター】栗田泉（神奈川県教育委員会）

【書記】柿本圭介（NPO 情報セキュリティフォーラム）

F: 大人が作ったルール&マナーについてこれは違うのではないかといったことについて、まずは、それぞれで付箋紙に書き出してもらいたい。その上で、ホワイトボードに書き出した付箋紙を貼りながら、分類していければと思う。

S: 大人が作ったルール自体に何があるかわからないので、書き出すのが難しい。書き出した内容は、ネット利用における良い点、悪い点（問題）のようになった。

S: まずは、これらをプラスの面かマイナスの面かという軸と感情の部分か具体的な行動に関することなのかで分類するのがよいのでは。

S: ラインでのいじめについて問題があると思う。ネットだと集団でのいじめになりやすい。グループチャットなどのネットの世界と現実の世界を分けることが重要。自分の発言に責任感がないのが問題である。なので、大人がそのようなルールを作るのだと思う。

S: 議論のゴール（目標）を何にするかを明確にすべきでは。いじめをよくないということテーマにするのか。

S: 問題→なぜ起こるか→原因究明→自分たちの使い方の理想の順で討議してはどうか。大人のルールができたのは、原因究明の結果であり、自分たちの理想と大人のルールに差がでるケースもあると思う。

S: まずは、フィルタリングの問題について話し合いたい。フィルタリングは、見たい情報が見られないというのが問題であるが、子供は善悪の判断がつかないため、悪い情報もみてしまうというのが大人の判断基準である。高校生は、善悪を区別する力を身に付けていく必要があり、大人にはそのためにきっかけづくりをしてもらいたい。

S: 次にスマホ依存についての問題について話し合いたい。大人の判断基準としては、学力が低下する、友達作りに支障がでるといったことから夜間の使用を制限するということであるが、強制的に制限するのではなく、高校生が自分の意思で使用できるような環境を作ってもらいたいと思う。例えば、利用方法について、計画を立てさせて提出させるようにするということが考えられる。

S: 大人はできない人に合わせてルールを作っているが、できない人はできないままになってしまっているのではないかと思う。強制するのではなく、自主的に行動するようなルールやきっかけを考えるべきではないか。

<熟議終了>

【ファシリテーター所感】

情報モラルに関する意識が高く、比較的スマートフォン等を自由に使用している生徒が多かったため、大人が作ったルールに何があるかを考えることから始めた。結論として、「情報モラル教育の在り方や、自分たちで利用計画を立てることを通して、インターネットの使用方法を考えること」が導き出された。

生徒の周りで起きているトラブルを基にルールについて考えるという流れで議論を進めた方が、生徒の実態に合っていたのではないかとと思う。

【書記所感】

初対面の人同士での討議であることや、討議するのに声が聞こえづらい環境であることが進行を難しくさせていたようであるが、徐々に生徒たちがまとまっていき最終的に意見をまとめて成果を出していたことに感心した。これは、今回の生徒に力量があったからであると思う。もしそうでない生徒を対象として実施する場合は、もう少し議論のポイントやファシリテーターがどこまで関与すべきかなどの果たすべき役割等を明確にし、開催日より前に集まって打ち合わせをしておくのが望ましいのではないかと感じた。

【6班】神奈川県立大和南高等学校 2年男・佳奈が県立横浜平沼高等学校 1年男、クラーク記念国際高等学校 1年男・神奈川県立湘南台高等学校 2年女・神奈川県立横浜国際高等学校 1年男・鎌倉女学院高等学校 1年女・鎌倉学園高等学校 1年男

【ファシリテーター】橋本 雅史（神奈川県教育委員会）

【書記】佐々日向子（お茶の水女子大学）

<p>Y: SNS を議論のベースに N: SNS してない。 Y: LINE やってる人の意見を聞きたい。問題を起こしたことは？ N: 体育祭で旗を作るときに SNS だとすれ違いが多かった。表情が見えず、要件が伝わらなかった。文面だけだと相手に伝わりにくい。 Y: 映像作成の授業で授業外に会う約束をするときに連絡先入れたくない人がいて、すれ違いが起きた。日程が合わなかった。文面が伝わらないことがあった。 I: 既読無視とか Y: どういうとき？既読無視されたら言う？ I: 待つ N: もしかして返信できない場合かも？問い詰めない。 N: 僕がするときも。しつこいときやる。 M: 僕もやる。平気ではやらない N: 要件しだい M: LINE でのいじめ。いじめの結果が既読無視になったり Y: こういういじめされたら？ N: 話し合ったほうが楽だと思う。人の顔見て話すほうがよい。その解決法としてスタンプあるらしいけど… Y: 会話中で突然スタンプ押されるのどう？ N: いやだ N: LINE ではなりたい自分になれる。そこが SNS のいいところ。学校では内気でも LINE では言える。 Y: LINE の中でなりたいキャラになれる？ M: あんまりない。キャラが違ってギャップなのはいやだ Y: ほかに LINE のいやなところは？ M: スタンプがいやだ。要件伝わらない。 Y: いじめ、要件が伝わらないなどの解決策は？ N: 実際に会う。SNS だとこじれると見てて思う I: 大事なことを伝えるときは電話をする。</p> <p>F: 今個人で守っているルールってある？暗黙の了解とか。LINE に関わらない。 N: 携帯は持ってるけど連絡はメール。でも友達から相談を受けたりする。 M: 相手の気持ちを考える。相手の顔を想像する。相手の立場を想像する。 Y: ~は使わない。チャット感覚にならないように。固い言葉にする。 N: 暴言ははかない。身内のノリでもいやだ。重く受け止める人もいるかも I: ふざけて言って傷つけることも。顔文字を使って和らげる。 T: 相手に分かりやすい文章を。文章だけしか伝えられないから相手が勘違いしないようにする。 N: 深夜には送らない。モラルの話 Y: 授業中には使わない N: 俺も。しつこいのはよくない。うまく断れなくて困ったことが。通知を切ったら減った。LINE のかわし方の一つとして有効 I: 多くの時間使用しない Y: どれくらい？ I: 半日くらい Y: スマホ触る要因は？</p>	<p>どちらでもない ・LINE とは別のアプリとして親が見れるものを作る ←さすがに高校生になってまで親に監視されるのはどうなの？ ←親の監視がなくなったら自立できなくなる ←小中学生までは義務教育だから正しいものと間違っただのとの判別をつかせられる。義務化させる T: LINE つかっていて誤解されたことがない。ちゃんとした言葉で話す。主語と述語をしっかりとる。 N: しっかりした文章で送る。ほかの人が見てもわかりやすいように N: LINE を誰かに見られているといいんじゃないか？ I: プライバシーの問題がある T: twitter に似てる Y: 悪くはないと思う。いじめをなくすのは難しい。第三者が監視するのが一番 I: 根本的な解決にはならない M: 教室に担任がいてもいじめがある T: LINE のシステムが悪い M: LINE を使うのは自己責任。互いが悪い。 Y: 一番悪いのは親が見れないところだ。 M: それは政府が監視するにつながる。結局プライバシーの問題 I: 親が見ても関係ない M: 親がいても兄弟げんかが起こる N: プライバシーの侵害ってどこから人権に引っかかるのか？ F: 見られているのを知らないまま見られているのは侵害。知っていれば大丈夫。 N: 一般人は見られなくして政府の人だけ見れるようにすればよい F: そんなサービスは持たないんじゃないか？ N: 利用規約に書いちゃえ Y: 会社じゃくて国？ N: 国。誰もが見えないのはよくない M: LINE なくてもいじめは起こるからいじめは人間関係の問題だ。 I: 個人の会話を見られるのはいやだ T: LINE や teitter は自由でやりたい。責任をもって発言するべき Y: LINE を監視させることに賛成か反対か 賛成三人、反対三人 Y: それはどうして？</p> <p>賛成 ・意識が高まる ・いじめだけじゃなく、暴言等の言動も規制できる ・いじめが今より減る ・人と話すときはいつも見られていないと野放しと変わらない ・将来や生活にも不安感はなくなっていく ・最近の事件などで報道されている場合、LINE や twitter で問題になっていることが多い</p> <p>・いじめが減る ・モラルの欠如（SNS と現実の区別がない）</p>
--	--

高校生 ICT Conference 2015 in 神奈川 熟議録

<p>N:twitter 見たい。LINE は見ないとトラブルが起こるので不安に。 T:その場の空気を読む。特別仲の良い子たちの間に入らない。なるべくかわからないとこっちも不安</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人に決められすぎるのはひどい ・政府の管理は公正なのか ・全部を管理するのは難しい ・個人の問題なのに国がお金を出すのがもったいない ・その人は変わらないから根本的な解決にならない。いじめの形が変わるだけではない ・別のアプリで対処する 	<p>反対</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことは自分で管理すべき ・だったらツイッターでいい ・話したいことを聞かれない ・国が監視してもいじめや悪口はあまり減らない ・自由がない ・根本的な解決にはならない ・LINE は実際に会っているかのように話せるのがいいアプリ。第三者に見られるのは無理がある ・国とはいえ管理されるのは自由から監視になるからよくない
<p>【ファシリテーター所感】</p> <p>熟議の開始から、あまり出番がないほど、生徒たちが自主的な議論を進めてくれた。同じ事例に対しても、賛成・反対両論が出て、活発に意見交換が行われた。</p> <p>今日、初めて会ったメンバーで、議論が深まるのか心配していたが全くの杞憂であった。「大人のつくったルール・マナー」の中で、高校生なりの工夫をしながらたくましく情報社会を生きている様子が、生き活きと伝わってきた。このような様子を一人でも多くの教員にも見てもらい、情報モラルに関する教育に興味・関心を示してもらい、より良い情報社会を一緒に構築してもらえよう、努力していきたいと思った。</p>	
<p>【書記所感】</p> <p>二回目の熟議のサポートでしたが、意見したい場面が多々ありました。生徒たちが中心となって熟議を進めている姿がとても立派だと思いました。私にとっては少し異議のある意見も多かったですが、彼らなりの意見を自由に発言し、自分の主張を堂々とできていたと思います。またサポートとして参加したいと思いました。</p>	

高校生 ICT Conference 2015 in 神奈川 熟議録

【7班】神奈川県立綾瀬西高等学校1年男・神奈川県立大和南高等学校2年男・神奈川県立横浜清陵総合高等学校3年男・クラーク記念国際高等学校1年男・鎌倉女学院高等学校2年女・神奈川県立藤沢総合高等学校2年男

【ファシリテーター】 川上 隆 (情報科学専門学校)

【書記】 山本理恵子 (慶応義塾大学)

<p>F 始める前に今日話してみたい議題について挙げていきましょう</p> <p>K ネットリテラシーについて</p> <p>k 情報議会に参加しているので、それにからめた話を。子供はこう考えているということの発信。これからに対するルールづくり</p> <p>G 大人もネットについて理解することが必要。</p> <p>K 大人との理解の相違を感じる。大人で SNS をつかっている人が極端に少ない。ラインの文字の打ち方すらわかってない。なぜ高校生が SNS をつかっているのかもわかってない。</p> <p>F 今日のルール。学校、年齢は気にせず言う。相手の意見は否定しない。関連事項をどんどん言いましょう！ポストイットに一つの話につき一枚を使って書いていく。</p> <p>ネットリテラシー、自分が考えていることを、これからの人たちに伝えていきたい。</p> <p>大人たちに対して言いたいこと。さっきの話を聞いて、気になったことはあるか。</p> <p>I デジタルアーツさんの話の時に、大人が思うこうした方がいいということと、子供が考えていることには差異があるのだなとかんじた。</p> <p>M 自分が発信したことをいい人も悪い人も見る。(ネットの世界というものが) 何もわからないものなのだとすることが怖いと感じた。</p> <p>H ラインは便利だけど、怖いことも起こるのだなと思った。</p> <p>F 危ないことと便利なこと、ありますね</p> <p>けられても理解しがたい</p> <p>S 「そもそも大人のルールってなんなの？マナーなの？規制なの？抑え付けられている気がする」</p> <p>S 「情報社会で育ってきた私たち、これからも生きていく私たちだから、規制も大事だけど、ネットとかかわる機会をもっとつくるべき。また、大人はそれをつぶさない」</p> <p>S 「SNS 上で知り合った人と会ってはいけない」</p> <p>学校の中での使い方に関する議論</p> <p>S 時代によって柔軟にルールを変えられる人とそうではない人の格差が生まれてきている</p> <p>F 主人公をきめることによって、もっと明確になるのでは。誰に向かって提言するのか。教育者なのか、親なのか、企業なのか</p> <p>S ルールが社会に適応できてない</p> <p>S 学校によって SNS に関するルールが違う</p> <p>S (鎌女) SNS 全面禁止</p> <p>S (神奈川学園) 携帯三原則、持ってくるのはいいけど、使用禁止</p> <p>S なにも言われない</p> <p>S 美術の時間はスマホで音楽聞きながらやってもいい</p> <p>S 先生は授業で教材として使っている</p> <p>S 調べ学習のときに、先生がスマホで調べていいよと言ってきておかしいなと感じた</p> <p>S 校則で縛る理由は学校側にもあるだろうし・・・</p> <p>S (鎌女) SNS が禁止な理由は、一度炎上したことがあるから</p> <p>S (神奈川) 面と向かった人と人とのコミュニケーション</p>	<p>家 保護者</p> <p>S 「子供に自由に使わせている」</p> <p>S 「SNS のことを知ろうとしない」</p> <p>S 「親は自分の子供がどのようなことで」 SNS を使っているか知らない」</p> <p>フィルタリング</p> <p>S 「フィルタリングは必要ない。有害な情報を選ぶのは大人だし、本来それを求めてのネットだから。」</p> <p>S 「コンピューター室のネットの規制レベル高すぎ→大人が考えた危険から子供を守るための守り方がやりすぎだと思う」</p> <p>S 「フィルタリングの規制範囲について」</p> <p>学校←投票の結果これについてやることに</p> <p>S 「SNS についての利用制限」</p> <p>S 「スマホを使ってはならない理由をちゃんというべき」</p> <p>S 「授業でスマホを持っていることを前提に話すべきではない」</p> <p>S 「携帯電話教室の内容が知っていることばかり」</p> <p>S 「SNS 禁止→まもられていない、統一されていない」</p> <p>S 「SNS オッケー→許容」</p> <p>公共</p> <p>S 「電車、バスでの使い方」</p> <p>S 「公共の場所で音をだす。駅や道だけでなく、教室も公共の場所です」</p> <p>政府</p> <p>S 「なぜだめなのか。常識が年代によって違うから、なぜか」</p> <p>S SNS の新しいルールづくり</p> <p>F 自分たちが自由に校則を作れるのだとすれば、どんなのをつくるか</p> <p>S そもそも学校が生徒の私生活を縛ることがおかしいと思う</p> <p>S 学校が規制する問題ではない。書き込む本人の自己責任</p> <p>S 携帯三原則は生徒の中であったほうがいいのかという声からできたもの。2001年に携帯の所持自体が禁止されたとき、生徒がこのようなルールがあれば所持は許可してもいいのではないかと、ということで、先生にかけあった結果できたもの</p> <p>S 逆にスマホ、SNS がオッケーな理由は、それらは、うまく使えばいいものに、悪く使えば悪いものになるということ、その使い方自体を生徒に学んでもらうために許可している。ちょっとの傷なら、次はどうしたらいいのかとちゃんと考えられるようになる</p> <p>S クラーク国際 規制することにはなんのメリットもない。規制しても結局生徒はやるのだから、許可して、正しい使い方を教育していくほうが生徒のためになる。ただ、画像の取り扱いには注意してほしいと思ってる</p> <p>S オッケーな学校でも問題はたくさん起こってるはず。登下校時間の投稿のせいで、登下校の時間に不審者が現れたりする。少しは痛い目を見て、何をすると危険なのかを学べ！という精神</p> <p>S 周りに学校が多い環境のため、不審者は現れない</p> <p>S 警備員はいるが、うまくかわされてしまう</p> <p>S フリーだが、使い方はきちんと考えていくべき</p> <p>S 痛い目をみずに、頭で理解してほしい派と、実体験的に使い方を学んでほしい派がある</p>
--	--

高校生 ICT Conference 2015 in 神奈川 熟議録

<p>を大切にしているから、教室などで一人で SNS をする人を出さないように</p> <p>S 問題は実際に起こっているわけなので、禁止するのは仕方ないことだとは思う。しかし、実際誰も守ってない</p> <p>S ネットリテラシーのない人とは付き合わない</p> <p>S 自分から個人情報をださなくても、友達が流出させることもある</p> <p>S ネットに写真あげることがふつうになってしまっている</p> <p>K 最初にテーマを決めた方がいいかなと思います</p> <p>F ポストイットを使って意見を出していきます</p> <p>午後の部</p> <p>F 普段の生活の中で、親や先生など周りから言われて、嫌だなと思ったネットのルールやマナーをポストイットに書いてみて下さい。</p>	<p>F 自由に新しい校則がつけれる。もしくは教育委員会に対して提言できるのだとしたら、なんといいたいかについて、ポストイットに書いてみて下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校則にのっとして自分たちのルールをつくる ・学校は学生がつくっていくものだと思うから、学校がルール改訂にうごくべき ・SNS に写真、位置情報を載せない ・ネットリテラシーを学ぶという新しい授業をつくるべき ・後輩に先輩が授業する <p>S 赤信号を渡ってはいけないと習った原理と同じように、CM や教育テレビでネットの危険な使われ方を紹介していくことが必要。小学校の授業にも組み込んでいくべき</p> <p>S 授業のようにただ受動的なものを受けるのではなく、小学校の道徳や、今回のように自分たちで考える時間を与えるべきである。</p> <p>S 英語教育が始まったように、小学校でもネットリテラシーの授業をとりこんでいくべき</p> <p>S 今の小学生はわたしたちの想像以上にネット媒体に慣れ、大人かぶれしたことをしている</p> <p>S 学校により、禁止、許容などはばが広すぎるため、国がおおよそな方針を決めて統一していくべき</p>
--	---

【ファシリテーター所感】

高校生が問題意識を持っている大人が決めたルールを論議するというセッションに参加できたことは、私自身にとっても大変有益な場であった。冒頭のみ進め方をアドバイスしたが、その後は高校生たち自身が主体的に議論を進め、内容が深まっていくことは感慨深かった。

私自身も学生と接する立場として、今後は大人の私たちが押し付けるのではなく、学生たち自らが考える場を提供していきたい。

【書記所感】

書記としては初めて、二年ぶりの ICT ですが、高校生の熱い議論に改めて考えさせられることも多かったです。3年前、2年前とネット、SNS を取り巻く状況は確実に変化しているなど感じました。スマホを持つこと自体のいい悪いが議論にあがっていた時代は終わり、今回は完全にスマホを持っていることが前提とされたことに、しみじみと時代が変わったなあと感じました。本日はこのような会に参加でき、非常に光栄でした。私自身にとっても貴重な経験となりました。ありがとうございました。

山本